

1-2 地域の見守り体制の充実〔重点〕

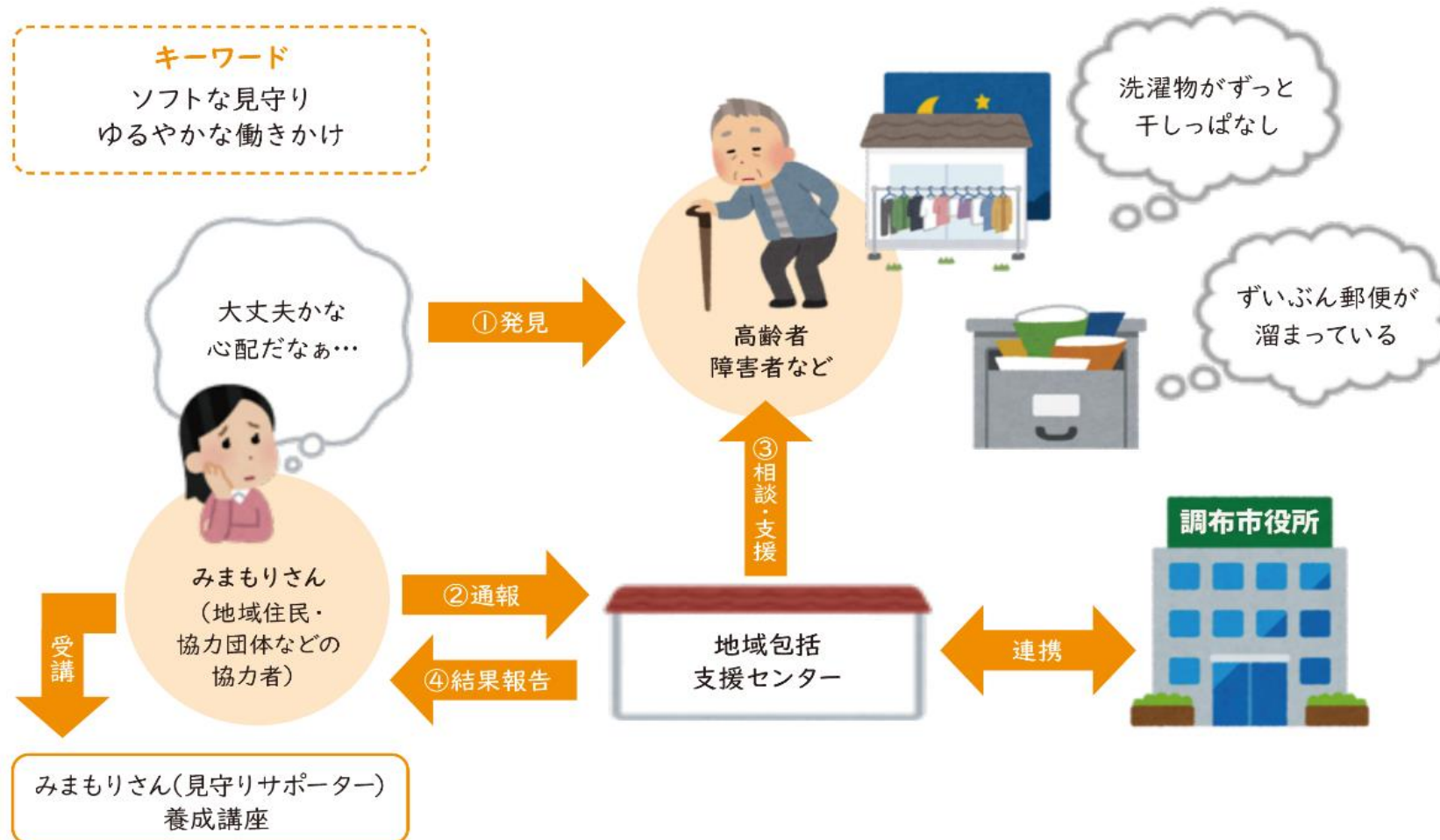
施策名	(1) 見守りネットワーク「みまもっと」の周知 (2) 協力団体・体制の充実 (3) 見守りサポーター「みまもりさん」の養成
現行施策の方針	○日常的に家族等の支援が得られにくいひとりぐらし高齢者や、複雑・多様な問題を抱える認知症等高齢者が地域で安心して暮らすことができるよう、インフォーマルサービスを活用した見守り支援の充実に取り組んでいきます。 ○地域住民・団体、企業等の連携・協力を引き出すため、多様で柔軟な連携・活動方法を検討・提案していきます。 ○高齢者は、配偶者との死別・離別や心身の疾患、経済的な課題等をきっかけに孤立し、フレイル・生活困窮・うつ病等の問題を抱える傾向が高く、地域とのつながりの希薄化はより一層、問題を困難にし、自殺リスクを高める要因ともなります。そのため、見守りネットワーク「みまもっと」を通じて、高齢者が地域で孤立することなく暮らし続けられる地域づくりや互助体制の強化に取り組んでいきます。

評価指標	実績値			目標値
	令和元年度	令和4年度	令和7年度	
みまもっとの認知度	38.0%	35.1%	42.3%	42.0%
みまもっと協力団体登録数（累計）	62団体※	74団体	79団体	85 団体
みまもりさん登録者数（累計）	423 人※	648 人	705人	900 人

※令和2年度

1-2 地域の見守り体制の充実〔重点〕

【「みまもっと」イメージ図】



1 地域包括ケアシステムの深化・推進

1-2 地域の見守り体制の充実〔重点〕

【現状整理】

○「みまもっと」周知のため、市ホームページや調布FM放送、バスの車内放送による広報媒体の活用や、調布市福祉まつり・地域のイベントでの出展、地域包括支援センターによる各圏域での企業や団体への訪問活動やチラシ配布、子ども向けシールや団体向けの下敷きなどの周知用グッズ（注1）の作成・活用等の取組を行う。併せて、「みまもっと」の知識の深化を目的に、養成講座を実施する。それにより、認知度については第9期計画での目標を達成したが、令和7年度調布市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書では、家族や知人・友人以外で相談するところがないと答えた方が約45%で、市や地域包括支援センターと答えた方が約16%であった。今後の高齢者人口の増加や社会状況を考えると、引き続き、「みまもっと」の周知は重要な取組である。

注1：周知用グッズ



みまもっとシール



下敷き「みまもっと とらのまき」（表・裏）



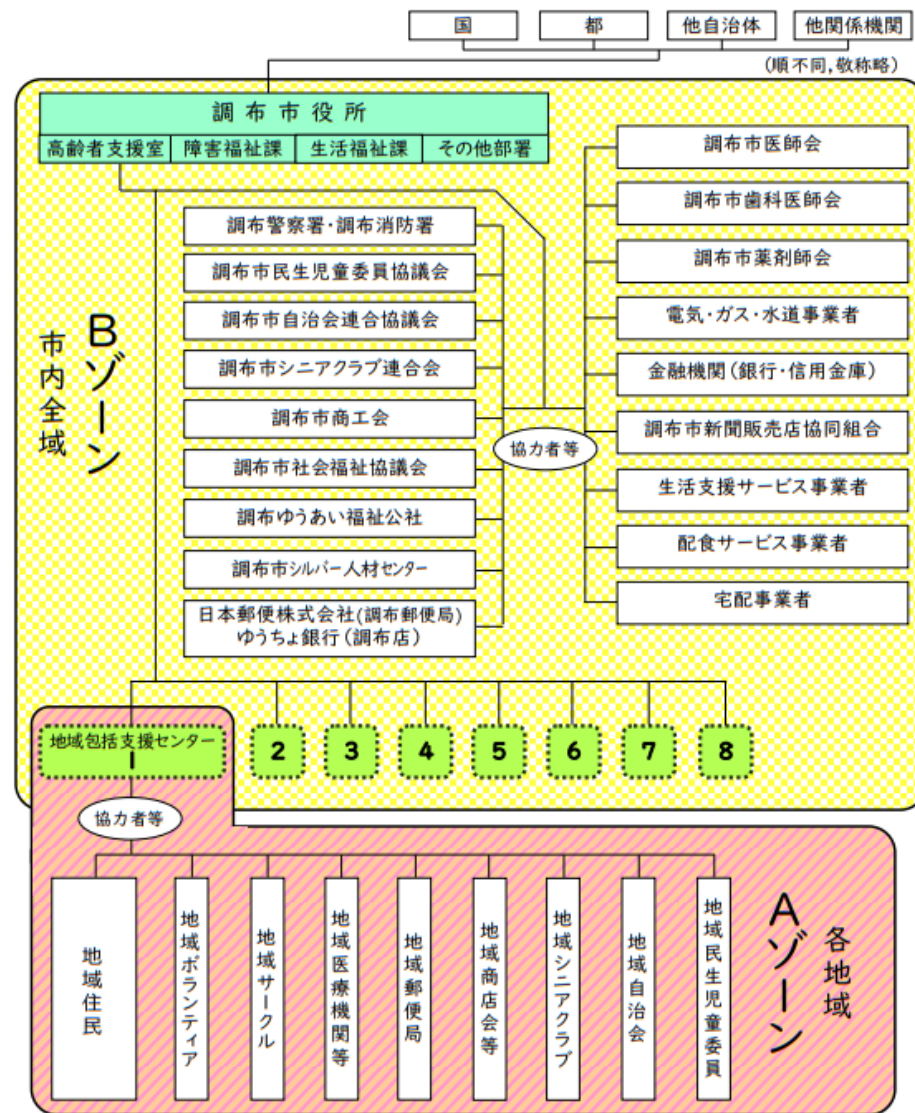
調布警察署との連携による自転車前カゴ用の防犯パトロールボード（みまもっとキャラクターを活用）

1 地域包括ケアシステムの深化・推進

1-2 地域の見守り体制の充実〔重点〕

【現状整理】

- 市内全域を範囲に「みまもっと」の協定団体で構成し実施する「調布市見守りネットワーク事業関係団体連携会議（Bゾーン会議）」や各圏域を範囲にその地域での団体や住民などで構成している連携会議（Aゾーン会議）（注2）で、事例検討によるグループワークでの意見交換や情報共有などを行い「みまもっと」の機能強化を図る。「みまもっと」の協定団体については、登録団体の統廃合による減少や、企業による個人情報の管理の観点から協定を見送られるケースもある。
- 高齢者の人口推移について、2040年に65歳以上の高齢者数がピークを迎えるとともに、介護と医療の複合ニーズを抱える85歳以上人口が増加する。このような高齢化の進展とともに、認知症高齢者の増加や独居の高齢者等の増加も見込まれる。一方で、現役世代の生産年齢人口の減少も見込まれ、どのように高齢者を支えていくかが課題となる。
- 厚生労働省では、地域における互助機能強化のための地域との連携・協働モデル事業を実施し、地域住民主体の活動を促進・強化し、地域生活課題を抱える地域住民を、地域の中で必要な支援に早期につなぐことができるようにすることを目指している。そのため、住民の主体的な支え合いによる見守りは、地域共生社会の実現に欠かせない。
- 企業や団体などにおいては、今後高齢者に関するサービスの取組を検討しているケースもあり、当市の高齢者の現状についての説明依頼が数件あった。
今後の高齢者の人口推移を考えると、様々な企業が高齢者に関するサービスを実施し市場開拓を進めると推測され、今後、企業や団体などが高齢者により関わることになる見込まれる。



注2：「みまもっと」の協力体制図

1-2 地域の見守り体制の充実〔重点〕

【課題】

- 高齢者の現状や今後の社会状況などから、地域包括ケアシステムが適切に機能するように、引き続き「みまもっと」周知を継続する必要がある。
- 協定団体の加入について、企業や団体の持つ顧客の個人情報や企業コンプライアンスなどの観点から、加入を見送ったケースがあった。地域包括ケアシステムの強化を図るために加入団体を促進させることも重要であるが、「みまもっと」のコンセプトは「緩やかな見守り」であり、心配な高齢者がいたら、まずは地域包括支援センターへ通報することが重要である。そのため、まずは市民や企業や団体の従業員などに「みまもっと」について理解してもらうための周知強化を行い、「みまもっと」の機能が円滑に作用することが大切である。
- 見守り体制の強化として、引き続き協定団体との「調布市見守りネットワーク事業関係団体連携会議」の中で情報共有や連携などを図り、また、見守りサポーター養成講座を実施し、企業や団体で働く従業員や地域住民への「見守り」への理解の深化に努める。

1 地域包括ケアシステムの深化・推進

1-2 地域の見守り体制の充実〔重点〕

- 今後、高齢者人口の増加が見込まれ、それに伴い、医療・介護の複合ニーズを抱える高齢者や独居高齢者の増加が予想され、孤立・孤独化した中で状況を悪化させることのないよう、課題を早期に発見し、適切な支援へと確実につなぐための仕組みが必要となります。引き続き、住民の主体的な支え合いによる見守りである「みまもっと」の一層の充実を図ります。
- 「みまもっと」が適切に機能するためには、異変に気づいたら「まずは地域包括支援センターへ通報する」という具体的な行動を促すことが重要です。年齢や市内外の住民・団体などを問わず、地域包括支援センターへの連絡の促進につながるよう、「みまもっと」が幅広く認知されるための普及啓発活動の展開や周知グッズの作成を検討し取り組みます。
- 「みまもっと」の機能促進のため、地域団体などとの連携を、より実効性のあるものへと強化します。そのため、調布市見守りネットワーク事業関係団体連携会議などにおいて、団体間での高齢者対応の課題や取組事例の意見交換、企業・団体が求める高齢者施策のニーズ把握などが促進できるよう、効果的な会議の運営方法やプログラム内容の見直しを図ります。また、見守りサポーター養成講座を通じて、地域の住民や団体などが「みまもっと」の理解を深め、その地域での「みまもっと」の機能促進が図れるよう、調布市見守りサポーター「みまもりさん」の養成に、引き続き取り組みます。

（評価指標・第10期目標値）

○みまもっとの認知度 45%

○みまもっと協力団体登録者数（累計）85団体

○みまもりさんの人数（累計）900人

1-2 地域の見守り体制の充実〔重点〕

●施策名：見守りネットワーク「みまもっと」の周知

- ・みまもっとが適切に機能できるように、市内外を問わず若年層を含めた幅広い世代の方々や企業・商店会などを対象とした普及啓発を展開するとともに、みまもっとへの関心を惹きつけるような新たな周知グッズの作成や様々な手法を検討し、周知活動に取り組んでいきます。
- ・地域の相談窓口である地域包括支援センターを中心に、地域住民・団体や関係機関などの地域の協力の輪を広げ、地域特性やその方に応じた見守りの提供、生活しやすい地域づくりを推進します。

●施策名：協力団体・体制の充実

- ・各地域の協力体制（Aゾーン）においては、地域包括支援センターを核とし、Aゾーン会議を通じた地域の特性・実情等に応じた見守りの仕方の検討・関係づくり、連携強化を図ります。
- ・市内全域の協力体制（Bゾーン）においては、協定締結団体と会議等を通じて見守りに対する課題や対応による好事例の情報共有・意見交換などを通して、連携強化を図ります。

●施策名：見守りサポーター「みまもりさん」の養成

- ・みまもっとへの理解を深めるために、市民・協力団体等の多様な主体にみまもりさん（見守りサポーター）養成講座を実施し、みまもっとの機能促進を図ります。
- ・通報内容を検証し、講座内容の充実・改善に努めていきます。
- ・協力団体に所属されている一人ひとりに「みまもっと」の目的・内容の理解・認知が深まるように、各団体の実情等に合わせて丁寧に取り組を進めていきます。